

12

HIGASHI COMPASS

junior high school

2024年
12月24日ふ えき
不 易

校長 林 武宏

国語を担当していたからか、個人的には年末の風物詩と感ずる、「流行語大賞」と「今年の漢字」がそれぞれ発表されました。

「流行語大賞」に選ばれたのは、「ふてほど」。私自身は口にしたことも、耳にしたこともない言葉でしたが、省略される前の言葉を聞いてなるほどと思いました。この省略語が「流行」語かという議論は巷間かまびすしいので、そちらに任せるとして、元となった『不適切にもほどがある!』というテレビドラマは、1986年と2024年を行き来する設定が私には年齢的にストライクで、また、主人公の職業も相まって、昭和の不適切さを思い出しながら最終話まで視聴しました。

主人公は、中学校の体育教師。その言葉遣いも指導法も大変に乱暴なもので、現在の基準からすれば不適切をこえて「体罰」に当たるものです。もちろんテレビドラマですから、誇張することで面白おかしく表現しているわけで、ドラマの全てが昭和の「適切」であったということではないでしょう。しかし、このドラマを契機にあらためて、適切・不適切ということを考えて方も多くおられたように感じます。

適切とは、状況や目的にぴったりと当てはまる、あるいは、その場や物事にふさわしいことを意味する言葉です。時代の状況が変化し、求められる目的が変わることで、「適切」も変わっていきます。学校教育の場、とりわけ私立学校においては、常にそのときの子どもたちにとっての最善を考えながら、教育活動を展開しています。設定した目的に到達すれば、当然、次の目的が設定されるわけで、学校という場の適切さというのは移り変わっていくのです。長い時間が経てば、今我々が適切だと信じて行っている教育活動は、ドラマのように、不適切な活動ということになっているかもしれません。適切さは移り変わるとはいえ、やはり先見性を持ち、新しいものを積極的に取り入れる柔軟性を持つことは大切でしょう。変化をおそれて、同じ教育活動だけを行う学校に未来はありません。

一方で、変化ということを思うとき、不易ということを考えざるをえません。「不易流行」は、松尾芭蕉が『奥の細道』の旅を終えたのちに、弟子たちに説いた概念です。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」。つまり、「易(か)わることのない真理を知らなければ基礎が確立せず、変化することを知らなければ新たな進展はない」ということです。しかも、「その本は一つなり」すなわち「両者の根本は一つ」だと説いています。変わらないものが芯としてしっかりとあり、同時に変化をおそれず、新しいものを取り入れていく。芭蕉が俳諧の理念として説いたこの考えは、今日、俳諧に留まらず大切な教えとして道を示してくれています。

私どもの教育の柱である、混合教育。健常な生徒と自閉症の生徒がともに学び合い、そして、ともに自立を目指していくこの環境。これは絶対に変わってはならない「不易」にあたります。この不易があるからこそ、新しいものをどんどん取り入れながら、よりよい教育を目指していけるわけです。この2024年も、子どもたちのための多くの変化がありましたが、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

さて、30回目を迎えた「今年の漢字」は「金」。これでオリンピック・パラリンピックがあった年は4回連続で「今年の漢字」は「金」となりました。2025年はどんな年になるでしょうか。平和で穏やかな一年となり、「今年の漢字」もそんな世相を反映した漢字となることを願ってやみません。私たちは2025年も、生徒の将来のために必要なことを考え、適切な教育活動の展開に努めていきます。

それでは皆さん、良いお年をお迎えください。

英語スピーチコンテスト(AB組)



<祝 優秀賞>

1年生：新井さん
2年生：川島さん
3年生：富川さん
堀さん

英語で「伝える力」を発揮する英語スピーチコンテストを12月13日に行いました。クラス予選を経て、16名の代表者が本選出場を果たしました。各学年のテーマはMy Favorite(1学年)、My Memory(2学年)、My Opinion on SDGs(3学年)です。1、2年生は個性あふれる内容で、ジェスチャーや声色を文によって変えたりと、細かな工夫が見られました。3年生は3年間の集大成としてSDGsについて自分の考えを述べました。批判的な思考を用いながらも達成をあきらめない前向きな内容を抑揚や間の取り方、聴衆への呼びかけ等を効果的に使い、堂々とスピーチしました。優秀賞は各学年で1名に与えられますが、特別選考枠*の生徒が対象となった場合は、もう1名が一般枠から選ばれます。

*英語圏からの帰国生または英語の学習環境にあった生徒の中から選出。

<本選出場者(発表順)>

クラス	氏名	タイトル
1年	新井さん	Thailand is very nice!!
1年	小野さん	Dance
1年	田中さん	Feeling Encouraged By
1年	梅田さん	Traditional Japanese sweets
1年	上村さん	Antarctica
2年	川島さん	A Wonderful Visit to Saga
2年	外木さん	My worst summer
2年	浅賀さん	Otaku is wonderful!
2年	辻さん	Life in Hong Kong
3年	高梨さん	Our Responsibility
3年	山本さん	Think and Act
3年	廣川さん	Ideals and Reality
3年	吉村さん	The Diversity of Land and Water
3年	堀さん	The Drivers of SDGs
3年	栗林さん	Education can change the world
3年	富川さん	Education in SDGs



第38回 毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト 毎日新聞社賞(全国2位)受賞!

12月7日(土) 第38回毎日カップ「体力づくりコンテスト」の表彰式が毎日新聞社本社にて行われました。本校は全国で3827校がエントリーする中、9月に第一次審査で上位300校に選ばれ、11月の第二次審査～最終審査を経て全国2位となる毎日新聞社賞を受賞しました。このコンテストは中学3年生の体力テストの結果をもとに、3年間での体力の伸長や日々の取り組みを総合的に評価し、審査する権威あるコンテストです。表彰式には中学校を代表して、3年渋谷さん、藤村さんが体育科の盛川先生とともに参加しました。全国から代表32校が集まる中、東京都からの選出は本校のみでした。選考対象の3年生は各個人の総合評価が5段階(A~E)に分かれている中、男子は上位2段階(A・B)に92.59%、女子は93.75%が入るなど、3年間の継続した取り組みが評価されたようで、身体が大きく成長するこの時期にしっかりと体力をつけられたことは生徒にとって大きな自信へと繋がったようです。表彰式後は、オリンピック柔道女子でアテネ、北京と2大会連続金メダルを獲得した谷本歩実選手がゲストとして「夢を叶える思考力」というテーマで講演され、本物の金メダルを触らせてもらったり、一緒に写真を撮ったりと貴重な経験をすることができました。



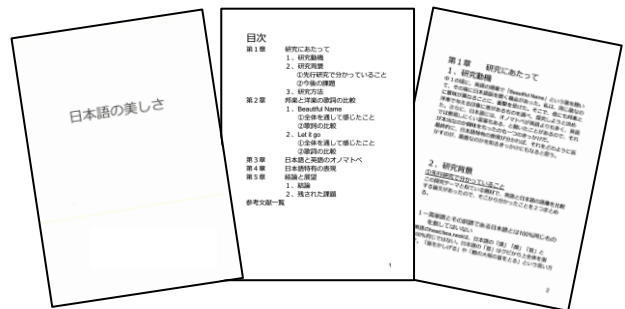
探究科 全国学芸サイエンスコンクール(旺文社)

6年連続入賞 & フジテレビ学校特別奨励賞!

3年生が昨年2年次に提出した探究科の作品の中から数点を選抜し、学校代表として今年度の旺文社主催「第68回 全国学芸サイエンスコンクール」に応募したところ、以下の通り1名が入選となりました!併せて、各部門で優秀な作品を応募した中学校(全国から1校)に授与される「フジテレビ学校特別奨励賞(サイエンス分野 社会科自由研究部門)」も受賞することができました。同コンクールは、1957年から青少年の学術・科学・文芸の振興を目的に毎年旺文社が実施しているもので、内閣府・文科省・環境省からも後援を受けており、今回も7万点を超える応募があった規模の大きなコンクールです。社会科自由研究部門(中学生の部)では1,252点の応募があり、この中で見事に1名が入選に選ばれました。「全国学芸サイエンスコンクール」のHPにて詳細を確認できますのでぜひご覧ください。

- 社会科自由研究部門
《 旺文社赤尾好夫記念賞 入選 》
3年 栗林 さん 「日本語の美しさ」

- フジテレビ学校特別奨励賞
《サイエンス分野 社会科自由研究部門》





「コラボ授業」 1、2学期の実施内容より

新たな価値観を創造する本質的な学びを目指し、従来の教科型の授業を脱して、教科を横断した学びによって本質を追究していくのが、今年6年目を迎える「教科横断型(コラボ)」授業です。コラボ授業では、複数の教科の先生がそれぞれの専門性を活かして、あるテーマに沿って一緒に授業を展開していきます。それぞれの教科で学んだことが結びつき、多角的な視点をもつことで理解は深まります。コラボ授業は、東中オリジナルの授業で、シラバス内に位置づけられ定番となったものがある一方、毎年、先生方の新たな試みがあり、常に発展し続けています。今回は1、2学期に行われたコラボ授業のいくつかを紹介します。

数学×美術 「座標でアート」

数学の「比例・反比例」の単元で座標について学んだ上で、指定された座標2点を直線で結ぶことを繰り返すことで「包絡線」とよばれる曲線が浮かび上がることを確認しました。また、美術科からの視点として、これを利用した美術作品や造形物があること、美しい曲線を直線で作ることができるということを学習し、実際に包絡線を利用した作品を描きました。直線から浮かび上がる曲線に関心を持ち、作品作りでは直線の傾きや幅を変えることでどんな曲線が浮かび上がるのか、もっとなめらかな直線を作るにはどうしたらいいのか、と想像力を膨らませている様子でした。

社会×音楽 「バロック音楽とイタリアの気候」

ヴィヴァルディ「四季」の「夏」について、社会科で学んだ気候の知識を活用し、イタリアの夏の特徴を理解した上で曲の鑑賞を行いました。地中海に面しているイタリアの厳しい暑さや激しい嵐が曲中でどのように表現されているのか、情景をイメージしながら聴くことで、曲のより深い理解につなげました。

国語×英語 「語順の違いによる意味の変化」

日本語では語順を入れかえることで、文の意味を変えることなく異なる表現ができるのに対して、英語では5つの文型によって文が表現されていることを学びました。日本語の柔軟さに気付いたところで次のような例文を示し、書き手の伝えたい場面を探る活動を行いました。

「自転車に乗って逃げる犯人を刑事が追いかけてきました。」

ここでは「犯人」が自転車に乗っているのか「刑事」が自転車に乗っているのか2通りの場面が想像されてしまいます。これを誤解なく伝えるために、どのように語順を入れかえればよいか、という活動では様々に意見が交わされ、日本語にも語順の必要性があることに気付くきっかけになりました。

理科×数学 「密度と比例」

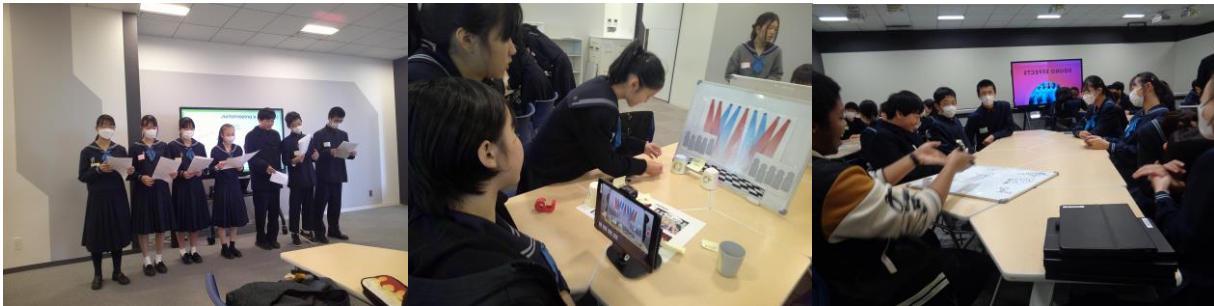
理科で学習した密度について、数学の比例の知識をもとに考える授業を行いました。密度は、質量を体積で割ることで求めることができます。体積と質量の関係をグラフに表し、比例関係を見つけることで、数学で学習した比例定数が物質の密度を表していることに気づく点がポイントです。密度が大きくなるとグラフはどうなるのか、水に浮かぶものと浮かばないものをグラフで判断するにはどうすればよいかなど、それぞれの教科で習った知識を繋げ合わせ、試行錯誤して問題を解いている様子が見られました。



1・2年AB組 TOKYO GLOBAL GATEWAY語学研修

1・2年AB組は、12月11日に東京都の体験型英語学習施設であるTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) で語学研修を行いました。活動は6～7名のグループ単位で行い、それぞれ1名ずつイングリッシュ・スピーカーのスタッフの方がつき、アクティビティをリードしてくれます。施設内には、指令が書いてあるカードをもとにミッションを達成する「アトラクションシーン」と、英語を使いながら様々な活動に取り組む「アクティブイマージョンシーン」の2種類の体験があり、学年ごとに4つのセッションを体験しました。

「アトラクションシーン」では、クリニック、旅行代理店、飛行機内、レストラン等での会話をミッションとして活動しました。「アクティブイマージョンシーン」では、1年生は英語のセリフを考えてiPadで撮影するコマ撮りアニメーション作成や、東京の魅力を伝えるグループプレゼンテーションをしました。2年生は効果音について学び、実際にアニメに効果音をつけるアクティビティや、「貧困の連鎖」を断ち切るためにできることを考えプレゼンテーションをしたりしました。1日の終わりにネイティブの先生方から「とてもすばらしい生徒達だ」とお褒めの言葉もいただき、日本にいながら普段の学習の成果を実践する良い機会となりました。



1～3年CDE組 キャリア教育「ネット安全教室」

1～3年CDE組では、年に2回外部講師の方による講座を開催しています。これは、将来の社会自立に向けて、必要な能力や態度を高めるといったキャリア教育の一環として企画しているものです。2学期は「ネットリテラシーを高め、スマホやインターネットを使う時のルールやマナーについて考える」というテーマで、NTT東日本より講師をお招きし、講演していただきました。

①インターネットは便利だけど、危険もあること。②コミュニケーションを取るときには、相手のことをよく考えて、ていねいに伝えること。③ホームページやメールは、書いてあることが正しいかどうか、よく考えること。④あやしいホームページやメールはぜったいに開かないこと。もしも、困ったことが起きたら、すぐに大人に相談すること。⑤個人が特定されるような情報はインターネットにあげないこと。⑥ネット依存に気をつけ、家の人とスマホの使い方や時間、ルールを決めてしっかり守ること、の6項目について、動画やクイズを交えながら分かりやすく教わり、生徒たちもインターネットやスマホの上手な使い方について改めて考える機会となりました。



第42回 発表会特集！

1月はいよいよ発表会です。それぞれの演目において、この大舞台で最大限に力を出し切れるよう、生徒一人ひとりがこれまで練習を重ねてきました。当日は自信に満ちた姿で、演技・演奏を披露することと期待しています。以下、体育科と音楽科の先生からの発表会に向けたコメントです。

★体育「Wonder」1年生CDE組男子

1年生の演目はリングと縄を使ったマスケームです。リングと縄をそれぞれ使った様々な跳び方に挑戦します。タイトルにもある「Wonder」は見ている人たちに驚きを届けたいという意味を込めました。1年生らしいフレッシュな演技で驚きをお届けします。(田代)

★体育「シンクロ」2年生CDE組男子

2年生は旗を使ったマスケームに挑戦しました。大・中・小様々な旗が「シンクロ」していく様子や全員で旗を振る壮大な動き、そして新技「クラゲ大作戦」が見どころとなっています。「感動」と「全員が活躍」の2つをテーマに演技を構成しています。(盛川)

★体育「疾風怒濤」1年生AB組 武道選択

1年生は素手のみで演技を創作、構成しました。演技のところで生徒が創作した動きを入れています。タイトルの「疾風怒濤」は様々な動きの速度で変化している様子を表現しました。1年生は基本の静と動を意識して演じます。(田代)

★体育「平安演武」2年生AB組 武道選択

2年生は素手と杖を使い、演技を構成しています。冒頭の有志選抜メンバーによる素手の演技や生徒が創作した集団演武など、見どころ満載な作品となっています。集団演武では杖以外にも様々な武具を使い、キレと臨場感のある動きで組手を披露します。(盛川)

★ダンス「バ・ロック —VIVALDI×QUEEN—」 1・2年生AB組 ダンス選択、CDE組女子

ダンスは技術・表現・創作の三本柱で授業を展開しています。その要素すべてが発表会作品に入っています。どの生徒も8×4呼間のフレーズ作りを行います。なかなか動きが生み出せない時間は重い雰囲気です。その後、振りうつしを行い構成がはじまると作品の見通しがつき、一気に雰囲気が明るくなります。バロック音楽はもしかするとロック音楽かもしれない。VIVALDIとQUEENのエネルギッシュでリズムカルな楽曲を通して、生命の輝きを力強く表現していきます。(丹治)

◆音楽

♪「春に」1年生AB組

この曲は「さまざまな気持ちが心の中で激しく動くこと、その時の心の様子」を表しています。合唱としては少し難易度の高い曲ですが、7月に行った合唱コンクールから一回り成長した合唱をお楽しみください。

♪「IN TERRA PAX」2年生AB組

この曲は「戦争と平和」をテーマに、若い人たちに向けて書かれました。大きなテーマに中学生として向き合い、今この時だからできる演奏をお届けします。

♪「瑠璃色の地球」全学年CDE組

同声三部合唱と本校オリジナルのハンドベル・ドラムパートが一体となり、「中学生らしいハーモニー」を目標に練習してきました。歌詞の内容にマッチした表現をお楽しみください。

♪「群青」1・2年生AB組

東日本大震災を経た、当時の中学1年生が紡いだ言葉から生まれた曲です。まさにこの曲を歌う1・2ABの皆さんと同世代のことばで書かれた、仲間たちへの思いがこもった歌詞を大切に歌いあげます。(宗像・佐藤駿)





12月の部活動試合結果

バスケットボール部

●東京都私学対抗戦(女子)予選リーグ(12/15 東京電機大中)

対 東京電気大中 29-4勝 対 香蘭中 12-21負 対 豊島岡中24-23勝 Aグループ2位通過